特定非営利活動法人　フリースペースたまりば（認定 NPO 法人）
2022 年度事業報告書
（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

１．事業の成果

今年度は、夢パーク・フリースペースえんで日常を過ごし、遊び、やってみたいことに挑戦し、暮らしを通して学び育つ子どもたちの成長を 3 年がかかりで追った重江良樹監督の映画がついに完成し、映画『ゆめパのじかん』が全国のミニシアターで上映された。また NHK で『ドキュメント 72 時間』「“どろんこパーク” 雨を走る子どもたち」が放送され、年末のスペシャル番組では視聴者が選ぶ年間 1 位に選ばれるなど非常に反響が多く、繰り返し再放送がされ全国で 1000 万人が夢パークを知ったと言われている。このようなこともあり、地方自治体の職員や議員、民間団体など夢パークの先駆的な取組への視察、見学の問い合わせが増えている。行政や個別団体のニーズに合わせた視察とは別に、合同見学会（一般向け）を月 1 回程度開催した。

また川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」は、支援対象者の拡大を経て 2 年目となった。昨年より利用人数は継続して増加しており、今年度の年間利用延べ人数は 2,302 人。コロナ禍で利用者数が大きく減少していた一昨年度と比べると約 10 倍の数となる。こうした背景には、若者たちそれぞれのひきこもり傾向や個々の状況に合わせたオーダーメイドの居場所づくりが効果を上げたと思われる。具体的には週 3 日の開所日の居場所の他、週 2 日の予約制の居場所、アウトリーチや個別対応など、出会う若者たちそれぞれに合わせたつながり方と希望する居場所の実現に取り組んできた。こうして多様な若者たちが出会い、集う居場所となったブリュッケでは、居場所から次のステップを目指す動きも活発となっている。就労体験「えんくる協力隊」への参加者は年間延べ 147 人となり、就労体験を経て一般就労を目指す流れも生まれている。併せて、働くだけに限らない自立の形を模索する若者たちも動きも見られ、ブリュッケの就労支援の新たな土台が築かれた 1 年となった。

2 年目となる「コミュニティスペースえんくる」の利用者は昨年より飛躍的に増加し、自主事業であるので、様々な助成金を活用して事業展開をした。「たまりばフードパントリー」においては給食がなくなる長期休みに冷凍品やレトルト食品の提供を行い、月 2 回の常温品に加え月 1 回新鮮な野菜や大量の冷凍品寄贈が追加され供給が安定してきた。「えんくる食堂」は土曜日のカレーランチを加え月 3 回開催し、バランスよい食事と、食文化を毎月約 130 食を提供。「こども☆きっさ」は登録者 165 名を超え、毎月平均 100 名が来所するようになり、子どもの日、ハロウィン、クリスマスなどの行事には子どもたちと一緒に飾りつけをして、ギフトを配布した。ただ食品を渡すだけでなく、食材や料理に興味を持ってもらうために、ひとり親家庭を対象に「簡単時短料理教室」スタートし、親子で料理する機会と食体験の提供は結果的に、孤立しがちな参加者同士の交流も生んだ。各事業で出会う利用者の SOS をキャッチする「相談事業」も落ち着いた場所で傾聴できる専用の場所を確保し、必要に応じて関係機関に同行する支援事業も始まった。困りごとを抱えている人だけでなく誰もが気楽に立ち寄れる「まちのひろば」として認識されるようになることが今後の課題となっている。

２．事業内容

居場所（活動拠点）・事業

A）川崎市子ども夢パーク
B）フリースペースえん　} 指定管理施設　　指定管理料（分担金）：53,601,000 円

C）川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」（川崎市生活保護受給世帯等若者就労自立支援事業）
委託費：　55,500,000 円

D）「よつばの会」（川崎市学習支援居場所づくり事業）　委託費：　7,594,972 円

E）「ふれあい心の友」（川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業）　委託費：　5,866,872 円

F）コミュニティースペースえんくる・フードパントリーたまりば

1. 「社会福祉振興助成事業」（WAM 助成）　助成金：　7,000,000 円
2. 厚労省補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」
（全国食支援活動協力会）　助成金:　1,591,000 円
3. 厚労省補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」
（フードバンク TAMA）　助成金：　500,000 円
4. 子ども食堂応援プロジェクト 2022 年度助成（オリックス宮内財団）　助成金：　390,720 円
5. かわさき市民公益活動助成金　ステップアップ１００　助成金：　1,000,000 円
6. かわさき市民公益活動助成金　組織基盤強化助成　助成金：　300,000 円
7. かわさき市民しきん　いしずえ（2021 年 10 月～2022 年 9 月）　助成金：　500,000 円
（2022 年度分　237,200 円）
8. 地域福祉活動支援事業一般助成　（神奈川県社会福祉協議会）　助成金：　200,000 円
9. その他、
王将フードサービス、むすびえ　助成金：　220,000 円
リコー社会貢献クラブ・FreeWill、川崎西ロータリークラブ　寄付金：　400,000 円
神奈川県子ども食堂応援事業協力金　委託費：　120,000 円

G）その他

1. 「発達障害を持つ不登校の子どもたちへの学校外での
多様な学びを支える教育支援事業」（NOBUKO 基金）　助成金：　2 ,500,000 円
2. 令和 3 年度 NHK 歳末たすけあい配分金（神奈川県共同募金会）　寄付金：　975,000 円
3. かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク［川崎事務局］　委託費：　508,762 円
4. 子どもの居場所づくり推進委託事業（神奈川県）　委託費：　411,600 円
5. 神奈川県生活困窮者支援団体応援協力金（3 拠点分）　委託費：　360,000 円
6. ひきこもり等支援団体支援事業協力金　委託費：　120,000 円

(1)　誰もが安心して過ごせる居場所の開設と運営

＜ A）川崎市子ども夢パークの管理・運営＞

・（公財）川崎市生涯学習財団と「川崎市子ども夢パーク共同運営事業体」を結成し、指定管理者として川崎市子ども夢パーク（以下　夢パーク）の管理・運営業務を行ない、夢パーク所長を理事長 西野博之から、事務局長 友兼大輔に交代し、副所長を千葉志門が務めた。生涯学習財団からの副所長とあわせ、計二名体制でより安全な施設管理、運営体制を実現した。

夢パークは、「川崎市子どもの権利に関する条例」の具現化を図ることを目的として川崎市によって設置され、子どもの活動拠点、プレーパーク、不登校支援、乳幼児・子育て支援、多文化共生、世代間交流等、多機能が備わった子どもたちの総合的な居場所である。これらの実現を目指して、以下の３つを事業の柱として、管理・運営を行なった。

＜夢パークの特徴＞

○「プレーパーク」…土や水、火や木材などの自然の素材や道具や工具を使い、子どもたちの遊び心によって自由につくりかえられる遊び場

○「フリースペースえん」…主に学校の中に居場所を見出せない子どもや若者たちが、学校外で多様に育ち・学ぶ場

○「子どもの活動拠点」…子どもが自由に安心して集い、自主的及び自発的に活動する拠点

＜子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所＞

夢パークでは「子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所」であることを目指して整備してきた。子どものいのちを真ん中におき、一人ひとりの自己肯定感を育む環境づくりに力を入れている。子どもが安心して、ありのままの自分でいられることを尊重し、自分の中から湧き出る「やってみたい」を大切にしたいと考えている。そして、できるだけ禁止事項をつくらず、子どもの発想で自由に遊び、自分の力の限界に挑戦し、それができたときの達成感を通して自信を育むとともに、安心して失敗できる環境づくりに力を注いだ。ここでは子どもの「参加」を大切にし、運営や遊具の製作・設置・撤去、イベントの開催などに子どもの意見を聴き、子どもたちが自主的・自発的に活動する拠点づくりをめざした。

○ 使いながらつくり続けていく場
○ 子どもの自由な遊び、活動がどんどんふくらむ場
○ 子どもが自由で安心して居られる場
○ 学校以外での育ち、学ぶ場
○ 川崎市の子どもネットワークの拠点となる場
○ 子どもたちが自分たちで動かしていく場

・開設日時（夢パーク）

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

通年（毎月第 3 火曜日の施設点検日、臨時施設点検日、年末年始を除く）　9:00～21:00

・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1　川崎市子ども夢パーク

・総利用者数：68,309 人

＜ B）不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」の運営＞

川崎市子ども夢パーク内において、学校や家庭・地域の中に居場所を見出せない子どもや若者が安心して過ごせる居場所づくりを行なった。今年度の特徴としては、小学生の登録者が急増していることがあげられる。

○ 自分で決めるプログラム

決められたカリキュラムはなく、子どもたち一人ひとりが、自分でその日をどのように過ごすかプログラムづくりを決定し一日の活動を行なった。　“この指とまれ”方式で、自主企画をたて、仲間を集めて一緒に活動した。

○ 昼食づくり

フードバンクやえんめし自主サークル「あたたかいごはんを食べる会」と連携し、「自分たちで一緒に作って食べる」を大切に、子どもや若者を中心にスタッフやボランティアがサポートしながら、毎日メニューを決め、買い物・野菜の収穫・調理・配膳・片付けなど、毎日 30～40 人分の昼食づくりを行なった。（1 食 250 円）

・開設日時（フリースペースえん）

2022 年 4 月 7 日～2023 年 3 月 17 日

月曜日～金曜日 10：30～18：00　祝日は休み（ただし、火曜日は 10：30～14：00）

開設日：192 日

特別活動日：17 日（自然野外体験、合宿、イベントなど ＜別紙参照＞）

・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1　川崎市子ども夢パーク内

・対象者：登録制

登録者数（2023 年 3 月 31 日現在）

	男	女	計
小学生	30	14	44
中学生	28	21	49
高校生年齢	11	7	18
19 才以上	20	15	35
計	89	57	146

＜ C）川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」（以下ブリュッケ）の開設・運営＞

今年度 3 月末における新規相談は 63 件、新規登録は 31 件となり、最終的な全登録者数は 100 名となった。対象年齢（15～39 歳）などの利用条件において、その範囲を拡大した一昨年度より、新規相談の受け方を大きく変えながら居場所の運営に取り組んできた。その結果、各区福祉事務所とブリュッケがこれまで以上に連携の機会を増やし、その成果として多くの若者が居場所につながっている。具体的な取り組みとしては、まず各福祉事務所から相談ベースで電話をいただき、気軽に見学に来ていただく、もしくはアウトリーチで福祉事務所へ訪問するなど、対象者がわずかでも居場所に興味を示してくれたタイミングを逃さず、スピーディにつながる姿勢を取り続けてきた。こうして多くの若者たちと出会ったその後は、開所日の居場所、予約制の居場所、アウトリーチや個別対応など、個々の状況に合わせたオーダーメイドの居場所が作られてきた。今後も福祉事務所からの相談に対してはまずは敷居を低く、間口を広く、相談を受けながら連携を強めていきたい。一方、居場所ニーズの高まりの中では、果たしてブリュッケが第一の選択肢として適切であるのか悩ましいケースもいくつか見られ、具体的なリファー先の提案とともに再考をお願いした場面もある。いずれにしても、居場所利用のニーズの広がりは想像以上に大きく、今後、福祉サービスをはじめとした様々な社会資源との連携を広げ、多様なニーズのもとで居場所を必要とする方々を取りこぼすことなく支えていけるネットワークづくりが求められている。

・開設日時

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

月曜日～金曜日 9：30～18：00

開所居場所：月・水・金　10：30～17：00　予約制居場所：火・木　10：30～17：00（一人 2 時間程度）

【開設時間例】

月・水・金：「みんな de ワーク」のんびりヨガ、各種グループワーク

「ひとり de ワーク」PC 個ワーク、珈琲工房

昼食づくり、フリータイム、ミーティング

共食タイム（「おいしい・うれしい・たのしい」をみんなで！）

火・木：予約制居場所・福祉事務所、自宅へのアウトリーチ（訪問居場所）・ご家族相談など

CW とのケース打合せ、行政関係機関とのケースカンファレンス、連携・調整会議

・場所：神奈川県川崎市中原区内
・対象者：登録制

●年間登録者数　100 名（2023.3.31 現在）

	15～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	合　計
男性	14	17	15	5	5	56
女性	14	13	10	6	1	44
合計	28	30	25	11	6	100

●支援類型

支援類型別相談支援者内訳（重複あり）	人数
居場所支援	72
就労支援	34
アウトリーチ支援	11
その他（CW への相談援助・定着支援・関係機関との連携ケース等）	35

＜多様な居場所の形と若者たちの変化＞

月水金の開所日を中心として、火木の予約制居場所やアウトリーチなど、個々のニーズに合わせてそれぞれの若者が無理なく人と関われる環境を用意してきた。いずれの場合においても職員と若者、または若者同士のつながりが生まれることによって、内面の変化やそれに連なる言動の変化が随所にみられるようになった。特に予約制の居場所から開所日の居場所へ移行し、徐々に若者同士が出会っていく中で横並びの関係同士で与える影響は大きい。今年度、居場所で見られた若者たちの様子を下記に事例として挙げる。

■18 歳男性。通信制高校を休学し、自宅で引きこもる状態からアウトリーチ支援を開始。まずは予約制居場所へつながり、対戦型のゲームで遊ぶことを通して開所日の居場所へつながっていく。現在は復学し、アルバイトを開始。居場所の仲間たちとの交流を広げている。

■25 歳女性。介護していた祖父の死去後、単身生保受給で生活。月 1 回の予約制居場所利用を開始し、好きなアーティストの動画視聴やゲームを職員と楽しむ。半年経過後から開所日の居場所利用を開始し、現在は若者同士の交流を楽しんでいる。

■36 歳男性。登録当初は定期の電話相談から開始。その後、予約制居場所で楽器演奏や個別の外出などを楽しむ。開所日のプログラムにオンラインで参加できたことをきっかけに、開所日の居場所へ来所し、仲間との交流につながった。

＜ D)「よつばの会」（川崎市学習支援居場所づくり事業）の開催＞

高津区を中心とした川崎市内の生活保護世帯、及び一人親世帯の中学生・高校生に対して、学習支援・居場所づくりを行なった。今年度からは、小学生の部（小学校 3 年生～6 年生対象）を新たに始めた。個別の理解度や苦手分野に合わせた個別学習を中心に行ない、学習以外にもサポーターや来ているメンバー同士が交流し関係性を築くことでその後の学習がスムーズにつながるよう心掛けた。高校入試直前には、受験生の希望者に対し、集中講座・無料の模擬試験を実施した。高校進学を希望したメンバーは全員高校進学を果たした。また、高校進学後も、いつでも相談や自習に来られるように受け入れ態勢を整えた。また、コロナ禍の影響を受け、様々な不安を抱えたメンバーや親の相談が多数寄せられ、丁寧に対応した。

・開設日時

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

週 2 日（月曜日・木曜日）小学生の部　16：30～17：30

中高生の部　18：30～20：30　祝日は休み

開催回数：94 回（高校入試前の集中講座を含む）

・開設場所：川崎市子ども夢パーク内「ミーティングルーム、多目的ホール」

・対象者：登録制

登録者（2023.3.31 現在）

	男		女		計
	生活保護	一人親	生活保護	一人親	
小 3	0	0	0	0	0
小 4	0	0	0	1	1
小 5	0	0	0	1	1
小 6	0	0	0	0	0
中 1	0	1	1	0	2
中 2	1	0	2	1	4
中 3	1	0	0	2	3
計	2	1	3	5	11

＜ E)「ふれあい心の友」（川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業）の実施＞

川崎市内の児童相談所と関わりのある不登校・ひきこもり傾向にある児童・生徒が、主に大学生が登録している「ふれあい心の友」と児童相談所内で交流し、自主性や社会性の伸長を図ることを目的としている。この事業のうち、フリースペースたまりばは、「ふれあい心の友」登録者と対象となる児童・生徒が一対一で学習をしたり話をしたりする個別活動支援のうち、「ふれあい心の友」の募集・研修・派遣を担当した。また、児童相談所に通ってくる複数名の児童・生徒が一緒にゲームをしたり料理をしたりする集団活動支援のうち、活動内容の企画立案・準備・運営を担当した。

・実施日時

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

実施回数：個別活動支援　130 回

集団活動支援　27 回

研修　31 回

・場所：川崎市こども家庭センター、川崎市中部児童相談所、川崎市北部児童相談所

・対象者：川崎市児童相談所と関わりのある 18 歳未満の児童・生徒

2022 年度利用者数（延べ人数）

	こども家庭センター	中部児童相談所	北部児童相談所	計
個別活動支援	1	13	116	130
集団活動支援	8	13	42	63

＜ F）コミュニティースペースえんくる・たまりばフードパントリーの運営＞

2022 年度は、新規に WAM「社会福祉振興助成事業」の助成金を受けて、冷凍冷蔵品を「フードパントリー2.0 事業、1 対 1 で丁寧に寄り添い次の支援に繋げる「相談事業」、食品を渡すだけではな　簡単に安価で家で作って食べる習慣を持ってもらう「料理教室事業」を開始。

昨年に引き続き厚労省補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業において、夏休みは一般社団法人全国食支援活動協力会、冬休みにはフードバンク TAMA の助成金を受けて、給食がなくなる長期休暇中の食支援を行った。パントリーにおいては配布量は 2．5 倍となった。別紙参照

２年目となるかわさき市民公益活動助成金を活用し、「こども☆きっさ」「チャレンジ・ラボ」「みんなでキッチン」各事業を継続。こどもきっさ「えんくる食堂」は新たに当助成金を活用いて２年目をスタートした。限定５０食とする中で常に定員一杯となっている。特徴的なのは食堂利用ではなくテイクアウト（持ち帰り）が８割～９割であること。背景には利用者の多くが一人親世帯であり、土曜日であっても就労しており時間的なハードルがある、障がいや引きこもり傾向がある子どもを抱えている、介護を抱えているので外出そのものが難しいなどというハードな課題を抱えている利用者が多いことがわかる。

・実施日時

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

週 4 日（月・水・金・土曜日）10：30～18：00　祝日、年末年始は休み

・場所：川崎市多摩区宿河原 6-26-24

・利用者と利用者数　＜詳細は別紙 1 参照＞

①　たまりばフードパントリー

昨年に引き続き生活保護課や社会福祉協議会、地域のフードドライブを実施する団体など、さまざまな団体・機関からの紹介でパントリー利用者が増加、ひとり親世帯の子どもたちに加え 8050 問題の当事者である 50 代以上の一人暮らしの高齢者の利用も増えた

〇定期利用登録者　　35 名

〇配布数：28，個、2,642 ㎏　〇利用者数 1438 人　＜詳細は別紙 1 参照＞

②　えんくる食堂利用者と利用者数

毎回限定５０食として、募集当日に 7 割の予約が入る状態。２回の夕食の食堂はどちらか 1 日の選択してもらうなど、できるだけ多くの家庭が利用できるよう工夫している。支援が必要な家庭は両日とも利用できるように優先している。

実施概要　月 3 回　　第２土曜日　　12：00～14：00　カレーランチ

第３第４土曜日　　17：00～　18：30～

食堂利用者　子ども 903 人　大人 718 人　合計 1621

持ち帰り利用 子ども 412 人　大人 403 人　合計　815 人

子ども 370 人　大人 205 人　合計　545 人

③　こども☆きっさ（月・水・金の 14:30-17:30 で実施）

子どもはジュース一杯、お菓子一個無料で立ち寄れる放課後の居場所である。近隣の小学生を中心に、口コミで利用者が広がった。未就学児を連れた親も利用している。

登録者（利用カード作成）165 名

開催日数　145 日　参加人数（述べ）1245 人

④　みんなでキッチン

昨年に引き続き新型コロナウィルスの感染状況を見ながら、若者と共にご飯を作って食べる会と

して実施した。
少人数ではあるが、連続して参加することにより料理スキルを得て、コミュニケーション力を高めた。
開催回数：5回　参加者数：30人

⑤　チャレンジ・ラボ
若者が多様な生き方を知る機会として、親たちが人間関係を広げ安心して過ごせる時間として実施した。多様な講師から技術だけでなく人生の歩みを聴く機会となった。
開催回数：１１回
参加者数：73人　6.6 名/1 回　　＜詳細は別紙1参照＞

⑥　相談事業（相談カフェ）
当初グループ相談を想定していたが、ひとりひとりが抱える課題が複合的で深刻な場合が多く個別相談の形をとった。パントリーの利用者には一人親世帯や困窮世帯が多く、今抱えている様々な問題に対して心理士が対応した。世帯の困難に加え、子どものひきこもり、自身の精神状態、仕事上の困りごとなどが寄せられた。
相談カフェ以外にも、月に４～5回LINE、メールでの相談も増えた。
昨年同様同行に加え、ケースカンファレンス、機関連携等による連携支援、調整等を行なった。
相談カフェ開催回数　12回　（1回につき2名の相談）

⑵不登校・引きこもりなどで悩む本人や家族等の相談・援助活動

①来所相談
・内容：不登校、ひきこもり、非行、いじめ、生活上の問題等で悩む本人や家族等の電話相談、事前予約による来所相談を行なった。また「ブリュッケ」では、市内福祉事務所ＣＷとの連携を重視し、複合的な課題を持つ家族への対応も含めたＣＷの相談やスーパーバイズなど、「ＣＷへの支援」も積極的に行なった。（無料）
・相談受付時間：（えん）原則　月曜日～金曜日　10：30～18：00　（祝日は休み）
（ブリュッケ）原則　月曜日～金曜日　10：30～17：00　（祝日は休み）
・相談場所：フリースペースえん、ブリュッケ（アウトリーチ及び来所面接は予約制）　他

②派遣・アウトリーチ相談
・内容：「ふれあい心の友」事業では、ふれあい心の友に登録している学生を児童相談所内に派遣し、不登校・ひきこもり傾向にある児童・生徒の相談・援助活動を行なった。また「ブリュッケ」では、福祉事務所までなら来所できる若者に対し、福祉事務所内等でアウトリーチ相談を行なった。その他、個人宅への訪問や福祉事務所への同行支援なども行なった。
・相談時間：児童相談所や福祉事務所と調整
・相談場所：児童相談所（登録制）、福祉事務所（登録制）　　他

③本人や保護者の相談
〇保護者とスタッフの語り合う会
・内容：保護者との関わりを大事にするために、また保護者同士がつながってお互いに話ができる様に、予定確認の他、その時々の保護者の困りごとや子どもの様子などを話しあう保護者会を開催した。予定の確認の部分はハイブリッドで開催した。
・日時：毎偶数月

・場所：フリースペースえん・夢パーク内多目的ホール
・対象者：フリースペースえんに登録している子どもの保護者

〇親の会「たまりば」
・内容：今年度より、主としてえんの説明会申し込みに入ることができなかった不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者を対象にそれぞれの抱える悩みを語り合い、「不登校のとらえ方」「子どもの受けとめ方」などを手に入れる会を開催した。
・日時：毎奇数月（原則）
・場所：ブリュッケ等
・対象者：不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者

〇不登校グループ別相談会
・内容：不登校・障害など同じ悩みを抱える保護者同士が出会い、悩みを分かち合い共感しあうことで孤立をさけ、お互いを支え合えるような繋がりを生みだすことを目指し、相談担当スタッフ5名程度の参加のもと、隔月でグループ相談会を開催した。
・日時：毎奇数月（原則）
・場所：夢パーク内多目的ホール
・対象者：不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者

(3)フリースペースの利用者による自主企画・活動の支援

＜ A）川崎市子ども夢パーク＞

①プレーパーク

子どもの「やってみたい」という気持ちを大切にし、遊びを制限するような禁止事項をできるかぎりつくらず、子どもが考え、自分で決めて、実行するプロセスを大事にした。自分の力の限界に挑戦することを通じ、「やったー」「できた」と達成感を手に入れると同時に、安心して失敗できる環境づくりに努めた。自由な発想で自由に遊べる環境を大切にした。

②3大イベント（夢パまつり、こどもゆめ横丁、新春イベント）

With コロナを考慮しつつ、以下のような工夫のもとイベントを行なった。

夢パまつりは、3年ぶりに水と泥の祭典として開催。当日限りの遊具も準備し、学生やえんの子ども・若者たちもボランティアとして参加。みんなで夢パークの誕生日を祝うのにふさわしい暑い一日となった。

こどもゆめ横丁では、年度始め（4月）から『ＹＴＫ（横丁たのしくしようかい）』メンバーの募集、及び子どもたちと話し合いを重ね、感染対策として残すべき部分は残すながらも、可能な限り制限をなくし、子どもたちが「やってみたい」を表現できる場となった。参加する子どもたちによる横丁会議で今年度のテーマは「自由」となった。

初夢！新春イベントは、消毒・手袋の使用・マスクの着用等を徹底しながら、町会の方々や学生等のボランティアにもご協力いただき、どんど焼きのみならず、3年ぶりに餅つきや豚汁のある新春イベントを開催することができた。

③ライブイベント

スタジオ登録者と月に 2 回『サタデーナイトスタジオ（ＳＮＳ）』を開催しライブイベントの再開を目指して話し合いを続け、7月にはOBの手助けも受けながら、子どもたちが主体となって開催した。

＜ B) フリースペースえん＞

① ミーティング

安心して過ごせる居場所を自分たちの力で整えていくために、誰もが言いたいことを言える環境づくりに力を注いだ。

・ミドルミーティング（毎週１回30分）

②自然体験合宿

○夏合宿（2泊3日）

場所：玉川キャンプ村（山梨県小菅村）　期間　2022年7月25日（月）～27日（水）

参加者：27名

コロナ禍のもと、例年行っている八丈島キャンプの代わりに、多摩川上流である山梨県小菅村にある玉川キャンプ村での合宿とした。川遊び、釣り、温泉、自然散策、楽器演奏、野外炊飯など一日の過ごし方を自分で決め、その日を過ごした。また、参加者ミーティングを開催し、必要な共同装備の準備・運搬・片付けなども子どもたちとともに行なった。

・合宿ミーティング　　7月4日（月）
・テント建て練習&チェック　　7月7日（木）
・テント干し&合宿片付け　　7月28日（木）

○木島平スキー合宿（2泊3日）

場所：長野県木島平スキー場　期間：2023年1月29日（日）～1月31日（火）

参加者：30名

一日のプログラムはスキー、スノーボード、そり・雪遊びなどから自分のやりたいことを選び、その日一日の過ごし方を決めた。滑りの得意な若者やOBが、初心者にスキーやスノーボードをする上での心構えや道具の使い方（板の履き方、板をつけての歩き方、転んだときの起き上がり方等）から基本的な滑り方を教えてくれた。それにより異世代間の交流の機会ともなった。

・参加者ミーティング　　1月6日（金）

③たまりばフェスティバル2022　「つなぐ」

講座や自主企画など一年間を通して行なってきた活動の発表の場として、フェスティバルを開催するために、子どもたちが「プロジェクトX（フェスティバル実行委員会)」を立ち上げ、準備を行なった。そこが中心となって仲間を集め、広報、プログラム・パンフづくり、その他の企画・運営を行なう

・開催日：2023年3月4日（土）14：00～17：30（開場13：00）
・場所：川崎市男女共同参画センター すくらむ21
・来場者　350名

④自主企画「この指とまれ」　（講座・自然観察・野外体験・イベント等）

内容:講座や企画は子どもたちが「こんなことやりたい！」という思いをミーティング等で呼びかけし、仲間を募って実現していった。　＜詳細は別紙２参照＞

○連続講座　　12講座

月１回程度、ものづくりや民族音楽（南米・アフリカ）やダンス、演劇、歌、アート、藍染めなどの表現講座、お菓子づくりやイタリアンパスタ講座などを開催した。

○単発企画　　21回

ミーティングなどで子どもたちが提案し、主体的な話し合いによって決定した自主企画や各種イベン

ト等に参加した。
○その他の企画　9種

⑤個別学習支援および進路相談
・内容：さまざまな発達段階にある児童・生徒に対する個別またはグループでの学習支援および進路相談を行なった。新しくできた多目的ホールなどを使って、個別に学習する子どもたちが増える傾向にある。また、慶応大学ボランティアサークル「ライチウス会」との連携によってオンライン個別学習支援を行なった。
・日時：随時
・場所：フリースペースえん、川崎市子ども夢パーク内「多目的ホール」

⑥オンライン（えんらいん）の活用
えんらいん（えんからのオンライン配信）を開設し、運用することで、子どもたちが在宅でもミーティングや講座に参加できるように工夫した。

＜ C) ブリュッケ＞

① 居場所支援

○共食タイム

今年度の共食タイムの食事提供数は大幅に増加した。利用人数の増加に伴うものだけではなく、これまで共食タイムに参加しなかった若者が昼食を取るようになった変化も複数見られている。背景には、誰でも安心しておいしく食事をとることができるよう、個別の環境作りを大切にした取組みがある。例えば、潔癖傾向のある若者には、あえて使い捨てできるカトラリーを用意したり、聴覚過敏や会食恐怖がある若者には、個ワークスペースや相談室、カウンター席など他人と目線を合わせずに昼食が取れる環境を用意した。食事提供数の増加はお昼の時間帯の来所を増やすことにつながり、昼夜逆転傾向が強いブリュッケの若者たちにとっては、「お昼ご飯を食べる」という自然な形で生活サイクルが整う流れが出来てきている。また、これまで調理に対してハードルを高く感じている若者が多かったことから、今年度は気軽に楽しく調理に参加をすることができるよう、餃子やきりたんぽ、恵方巻など大人数で作れる調理メニューを取り入れた。若者から「このメニューに挑戦してみたい」という声が上がることも増えてきており、その際は、日程・予算・材料・工程から一緒に考え、希望のメニューを実現させてきた。その結果、自宅での自炊に挑戦したり、これまで関心のなかった家事の手伝いをするなど、若者たちそれぞれの生活の中で「食べる」ことから「作る」ことへの意識が芽生え始めている。

○グループワーク（開所日の居場所）

居場所につながる多様な若者たちに合わせたグループワークを随時提供している。開所日は、「みんなde ワーク（集団）」と「ひとり de ワーク（個別）」に分け、集団の中にいても一人の時間が守られ、各自が取組みたい作業に集中できる環境を用意している。新規の相談では、「ひとり de ワークから通所を始めたい」という声が多くみられる。まずは「個ワークスペース」で過ごしつつ、周辺に何となく誰かがいる場所に慣れていき、次第にグループワークコーナーに移動していく流れができている。

【開所日の居場所　年間利用者延べ人数（合計利用延べ人数 2,302 名）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
142	161	170	151	185	144	194	202	216	195	229	313

○予約制居場所

開所日以外の火曜日と木曜日を予約制居場所として開所。個別対応の居場所支援を行った。担当職員と好きなゲームやYouTube鑑賞を楽しんだり、ＰＣ練習の時間に使う若者などが見られた。居場所の環境に慣れ、職員と交流し、徐々に安心感を抱いていく様子が見られ、予約制居場所からスタートし、開所日利用へとつながっていくケースが複数見られている。

【予約制の居場所　年間利用者延べ人数（合計利用延べ人数134名）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
8	10	11	9	6	7	12	8	15	16	15	17

○アウトリーチ支援

居場所まで来ることが難しい若者を対象にアウトリーチ支援を継続して行っている。各自のニーズに合わせて、福祉事務所や自宅などにおいて訪問型の居場所提供を実現している。アウトリーチ支援から予約居場所へ、開所日の居場所へなど若者それぞれのペースで次のつながりへ展開している。

【アウトリーチ　年間利用者延べ人数（合計利用延べ人数50名）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
8	4	4	4	5	4	5	4	2	3	2	5

※アウトリーチ先（訪問延べ回数）：福祉事務所17回、自宅17回、その他15回

○その他

・ルーブリック評価を用いた居場所アセスメントにより、個々の自立への歩みを職員全体で共有
・個々の記録を管理する専用データベースシステムで日々の若者たちの様子を共有

① 就労支援

○就労体験えんくる協力隊　～就労支援の新たな土台づくりとして～

昨年度スタートした、法人事業「コミュニティスペースえんくる」での就労体験「えんくる協力隊」には今年度も多くの若者が参加した。令和4年3月末における参加人数は14名。延べ参加人数は147名にも上る。試行錯誤の中で始まった「えんくる協力隊」であったが、多くの若者が参加した今年度、その中身は一層濃いものとなり、ブリュッケ独自の就労支援の新たな土台づくりとなっている。協力隊では、パントリーサポート（清掃、在庫チェック、PC入力）、食堂サポート（調理補助、盛りつけ）、配送サポート（フードバンク積荷、配送、運搬）の3つの作業体験ができる。若者たちは、まずはやってみたいサポートを自分で選び、実際に体験することで自身の得意不得意や興味のある分野などを知る機会となる。例えば、食堂サポートに参加した若者は、これまでの生活において調理経験がほぼなかったが、参加をきっかけに「（調理が）意外に好きかも」と話し、ブリュッケの昼食づくりにも欠かさず参加するようになった。このように自分自身の新たな一面と出会いながら、1日3時間、週1～2回の体験参加を継続する中で自身の体力を改めて自覚し、生活リズムの改善を意識し始める若者もいた。

○「小さな職場」での学び

就労体験の現場では、えんくるスタッフ、ブリュッケの就労支援担当（ジョブコーチ）が若者たちと働くことを通したコミュニケーションを重ねながら、関係性と信頼関係を構築し、一つの「小さな職場」が作られていく。失敗も大事な経験にできるこの「小さな職場」の中で、作業性の評価や就労準備性全般へのアセスメントがじつに自然な形で若者たちへのフィードバックされていく。この関わりは若者たちが働くことを学ぶ機会であるのと同時に、それを支える周囲にとっても改めて就労支援そのものを学ぶ重要な機会となっている。例えば、配送サポートに参加した若者が助手席でスマートフォンをいじっ

てしまう行動については、ドライバー助手として必要な役割を本人と話し合い、確認する時間を取った。しかし、その中で本人は「ドライバーと何を会話したらよいのかわからなった」という悩みを語ってくれている。これはそれまで支援側が気づくことのできなかった一面であった。また別のケースでは、当日の急なお休み、遅刻などに関しても、欠勤することでどのような支障が起きるのかがイメージできていなかった若者もいる。そもそも自分が戦力となっている実感を持てていなかったことから、「休むと現場が困る」と想像することが出来なかったのである。加えて、電話連絡の際にどのような言葉で何を伝えたらよいのかがわからなかった若者には、挨拶の言葉から始まり、電話を切るタイミングなどを細かく伝えるサポートが必要だった。このように、「知っていて当たり前」、「周りを見ながら何となく学ぶはず」など周囲が安易に一般常識で捉えてしまう前に、ブリュッケにつながる若者たちが見ている世界、彼らが抱くイメージなどを丁寧に共有していく必要がある。「小さな職場」で起きる小さな事件は、就労支援における重要なヒントを得る機会であった。そして、若者たちはこれらの経験を通して自己理解を深めると同時に、他者評価の視点を共有しながら、少しずつ自信の芽を育てている。今年度、えんくる協力隊参加後に一般就労にチャレンジした若者は、5名。内、就労に至った若者は、4名（内2名はインターン就労中)。あえなく短期間で離職したケースも1名あるが、再び次の仕事にチャレンジしており、こうした実績から見ても就労体験を通して若者たちが得ることができた自信は、次のステップへ踏み出すための力強い足掛かりとなっていることがわかる。

今後もこうした効果的な体験の機会を増やしていくために、上半期は就労体験の拡大に取り組み、地域のシェアオフィスと近隣幼稚園での清掃作業の開拓を行った。今年度は、シェアオフィスで2名、幼稚園で1名の就労体験が実現し、次年度に向けて継続していく予定である。今後は地域の中に若者たちがゆっくりと育っていくことができる「小さな職場」を増やしていきたい。

〇新たな自立の道を探し始めた若者たち

今年度、新たな動きとして若者たち有志のボランティアサークル「ブリュッケよろずや」が立ち上がった。きっかけは、就労体験の場として開拓した地域の幼稚園とのつながりからである。幼稚園では年間行事で使う飾り付けの制作が大きな業務量となっているとの話を聞き、昨年のクリスマス会で使う飾り付けを若者たちで作らせてもらった。参加はあくまでも自由で、その時に手が空いていた若者が何となく集まり始まっている。結果、飾り付け制作は非常に盛り上がり、制作物は若者たち自らが幼稚園へ運び入れ、ブリュッケの若者と地域が直接つながる機会となったのである。その時の経験をもとに、その後、若者たち自らが「地域につながっていくブリュッケを目指したい」と話し合い、「よろずや」を発足した。名刺やポスターを作成し、改めて最初の依頼元となった幼稚園へ挨拶に出向いている。今後はさらに広く、地域の困りごとやニーズをキャッチしていきたいと意欲的に話し合いを重ねている。

ブリュッケには就労に繋がらない多くの若者が集まってくるが、既存の就労支援の在り方が今一度問われている現実を痛感してならない。就労に限らない自立の在り方を今、若者たち自らが模索し始めている。ブリュッケの新たな自立支援の形が若者たちから生まれようとしており、この動きを見守りながら、働くことだけに限らない自立の形や新たな生き方を若者たちとともに目指していきたい。

【就労体験（えんくる協力隊）参加状況（延べ)】

パントリーサポート	食堂サポート	配送サポート	合計
84名	37名	26名	147名

※パントリーサポート：清掃、PC入力、在庫チェックなど
食堂サポート：調理補助、盛りつけなど
配送サポート：積荷、配送補助など

【就労に向けた活動参加者数】

体験実習	職場見学	就労体験
4名	6名	14名

【2022 年度新規就労者】

正社員	パート：週 4～5 日	パート：週 1～3 日	契約社員・委託	その他
1 名	4 名	7 名	2 名	1 名

② 川崎市内福祉事務所の職員（ケースワーカー）・関係機関各所とのチーム支援の実現

年間通して関係機関との連携は広がりを見せている。居場所利用のニーズの高まりと多様化に伴い、ネットワークの構築は急務であり、ブリュッケはひきこもりに関連した相談を単に居場所として受けるだけではなく、個々の状況を共有しながら然るべき先へのリファーやつなぎ直していくハブ的な役割も求められている。こうした中、一昨年度から川崎市だい job センター、川崎市ひきこもり地域支援センターとの連携会議を開催してきた。併せて、だい job センター、ひきこもり地域支援センターに若者サポートステーションも参加した生活困窮者支援従事者合同勉強会へも参加し、互いに学びながら連携を展開する機会を増やしている。こうした取り組みの中で、だい job センターとは就労支援、家計相談で、若者サポートステーションとは大学進学相談など、それぞれの機関の特色を生かした具体的な連携ケースが展開している。この流れを止めることなく、次年度以降は地域全体の困窮者支援、ひきこもり支援のさらなる底上げを目指し、ネットワーク構築を継続していきたい。

■連携機関

各区福祉事務所、だい job センター、ひきこもり地域支援センター、若者サポートステーション、各区みまもり地域支援センター、こども家庭支援センター、児童相談所、川崎障害者就業・生活支援センター、発達相談支援センター、地域の精神科クリニック　など

■参加会議など

・かながわ困窮者支援ネットワーク会議（川崎地域事務局）：ネットワーク会議・勉強会
・川崎市ひきこもり支援ネットワーク会議（幹事会）：ネットワーク会議
・障害と困窮のネットワーク会議（幹事会）：シンポジウム・ネットワーク会議
・川崎支え合う生活モデルを考える会（幹事会）：定例会義
・中原機関連携会議：定例事例検討会
・生活困窮者支援従事者合同勉強会：事例検討会
・武蔵新城ご近所さんぽの会（幹事会・会場提供）：定例会議

＜「工房たまりば」＞

本年度は、マスクやハンカチなどの藍染め製品の製作、販売を行った。コロナ禍で工房製品の販売の機会にしていたイベントがほとんど中止になったため、例年より製作数、販売数はかなり減ったが、製作時はフリースペースえんの保護者同士の交流の場となっていた。

(4)保護者・教育関係者・学生・市民の学習と交流の機会及び情報の提供・発信活動

＜広報・啓発活動＞

①通信の発行

・内容：毎月のカレンダー、活動報告、お知らせ等を掲載した定期情報紙『楽えんだより かわら版』（毎月）と『たまりば通信』（年 4 回）や、一年間の活動の様子や会員の寄稿を掲載した冊子『楽えんだよりＤＸ』（年１回）を制作、発行した。

夢パーク利用者向けには、共同運営事業体として、『夢パークつうしん』を隔月で発行。

②ホームページ・Facebook の開設と運営

・内容：たまりば HP をリニューアルし、活動の予定や報告などを公開し、たまりば会員だけではなく一般の人への広報の場とした。また、フェイスブック等 SNS で、日常の様子を広く伝えた。

たまりば HP　https://www.tamariba.org/

たまりば FB　https://www.facebook.com/tamaribaNPO/

えんくる FB　https://www.facebook.com/encru.tamariba/

えんくる公式 LINE 等

＊このほか共同運営事業体として、夢パークの HP・インスタグラムの運営

③フリースペース活動説明会

・内容：不登校・ひきこもりに関する理解を促進し、「フリースペースえん」や「川崎市子ども夢パーク」の活動をより身近に感じ、知ってもらうために「フリースペースって、どんなとこ？」を開催した。

・日時：毎偶数月

・対象者：不登校児童・生徒の保護者、ひきこもりの当事者、支援機関、学校関係者、研究者、学生等

④講演活動・スタッフ派遣および視察・見学等の受け入れ

・不登校・ひきこもりはもとより、子どもや若者たちの学校外での多様な生き方や学び方への理解を深めるために、また居場所のあり方、子どもの権利、遊び、子育てなどをテーマに、市民、教育関係者、行政職員、NPO 関係者、学生などを対象に幅広く講演活動を行なった。

・一年間を通して、各地から川崎市子ども夢パーク及びフリースペースえん等への視察・見学を 100 件受け入れた。

・川崎市内の児童相談所（3 カ所）で行なう研修の中で、ふれあい心の友の活動を中心にフリースペースたまりばの各事業について、事業紹介を行なった。

・遊び場づくりなどをしている団体へスタッフ派遣をし、子どもの遊び環境の充実を図った。

・夢パーク合同見学会（一般）の開催

⑤講演会の開催

○「いじめってなに？」＜ピンクシャツデー＞

・内容：世界各地でいじめ STOP を掲げる「ピンクシャツデー」をきっかけに、いじめを苦に自ら命を絶った篠原真矢さんのいじめ自死事件の調査検証報告書を担当 した、元指導主事・渡邉信二さんを招き、子どもたちと一緒に「いじめ」について考える会を開催した。

・講師：篠原宏明氏（　一社）ここから未来 理事）

・日時：2023 年 2 月 22 日

・会場：フリースペースえん

・参加人数：30 名

＜各種会議やネットワークへの参画・連携＞

⑥国・東京都・神奈川県他の施策にかかわる協力・連携

・全国自治体シンポジウムにて分科会を担当

・法務省保護観察官・家裁調査官研修講師を務めた。

・内閣官房こども家庭庁準備室との連携・協力を行った

・文部科学省・東京都の視察受け入れを行った。

・地方議会総合研究所主催の一都五県の議員を対象としたオンラインセミナーの講師を務めた

・神奈川県青少年問題協議会委員として参加（事務局：神奈川県福祉子どもみらい局みらい部青少年課）

・神奈川県学校・フリースクール連携協議会企画委員を務めた。

・東京都教育相談センター研修講師を務めた
・長野市長・藤沢市長・国立市長などと対談。政策立案等にからむ協力を行った。
・国立市のスクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーを務めた。

⑦川崎市・高津区の施策にかかわる会議への参加
・川崎市ひきこもり支援ネットワーク会議委員長を務めた。
・川崎市不登校対策連絡会議委員
・かわさき子どもの権利の日事業部会（事務局：川崎市こども未来局）
・川崎市社会教育委員会議青少年教育施設専門部会（事務局：川崎市こども未来局）
・高津区地域教育会議（所管：川崎市教育委員会）
・高津区子ども・子育てネットワーク会議（事務局：高津区地域みまもり支援センター）委員長
・川崎市子ども会議（所管：川崎市教育委員会）との連携・協力
・高津区防災ネットワーク会議（事務局：高津区役所危機管理担当）
・高津区生涯学習推進会議（所管：高津区まちづくり推進部生涯学習支援課）

⑧子どものセーフティーネット構築における関係機関との協働・連携
・高津区要保護児童対策地域協議会（事務局：川崎市こども未来局）へ参加
・川崎市不登校対策連携会議（事務局：川崎市総合教育センター）へ参加
・神奈川県学校・フリースクール等連携協議会（事務局：神奈川県教育委員会）へ参加
・川崎市発達障害者支援地域連絡調整会議（事務局：川崎市健康福祉局）へ参加
・高津区橘地区社会福祉協議会青少年部会委員に就任
・「高津区ボランティア・当事者連絡会」へ参加

⑨民間団体・市民との連携
・子どもの声を聴く無料電話相談「かわさきチャイルドライン」と連携協力
・「日本冒険遊び場づくり協会」と連携
・「フードバンクかながわ」「かわさき子ども食堂ネットワーク」と連携
・かわさきかえるプロジェクト（天ぷら油等の廃油を回収・再利用）と協力
・「かわさき子どもの権利フォーラム」と連携
・神奈川子ども未来ファンドとの連携により、いじめ撲滅をめざした「ピンクシャツデー」を開催し、連続講座のコーディネーターを務めた
・かながわ生活困窮者支援ネットワークと連携
・水曜パトロールの会（ホームレス支援）と連携
・ちいくれん（地域で子育てを考えよう連絡会）と連携
・子どもの権利条約ネットワークに参加。全国フォーラム沖縄大会の全体会パネラー・分科会講師を務めた。

＜研修・実習等の受け入れ＞

フリースペースえん及び川崎市子ども夢パークにおいてボランティアや職員、学生等の体験研修・実習を受け入れた。（慶應義塾大学、明治学院大学、学習院大学、國學院大學、青山学院大学、東京農業大学、恵泉女学園大学、清泉女子大学、聖心女子大学、中央大学、慈恵医科大学、聖徳大学、神奈川大学社会教育実習、白梅学園大学、横浜桐蔭大学サービスラーニング実習、日本女子大学、日本女子大学大学院、鎌倉市教育委員会派遣研修など）

＜かながわ生活困窮者自立支援ネットワークへの参画　＞

G-3）かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（幹事団体及び川崎地域事務局）

「かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（任意団体：かなこんネット）」の活動に、幹事団体として 2022 年度も年間を通して活動を行った。ネットワーク会議と学習会、社会資源の広域的開拓(かながわ生活応援サイトの運営等）は、神奈川県生活援護課から、かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク(以下「かなこん ネット」)への委託事業であるとともに、協働協定書を締結しての協働事業として実施した。 ネットワーク会議の準備段階においても、県生活援護課と、かなこんネットの幹事団体がオ ンライン会議で打ち合わせを重ね、役割を分担して講師や報告者への依頼や調整を行い、広 報においても民間団体に対しては、かなこんネットから、県内市町村に対しては県生活援護 課から周知を行った。こうした役割分担と連携により、ネットワーク会議や学習会には民間 団体、行政、関係機関が参加し、官民の垣根を越えた情報共有や意見交換を行うことが可能 となった。

※運営体制：【全体事務局】一般社団法人インクルージョンネットかながわ
【川崎地域事務局】認定 NPO 法人フリースペースたまりば
【県西・県央地域事務局】特定非営利活動法人子どもと生活文化協会

・事業 1：社会資源の広域的開拓

1） かながわ生活応援サイトの運営

2022 年度は、新型コロナウィルス感染状況を鑑み、各団体・機関を訪問しての資源開 拓は控えた。

かながわ生活応援サイトでは、「神奈川県生活困窮者支援団体応援協力金」に応募した 団体のうち、かながわ生活応援サイト未掲載団体と、応援サイトに掲載団体であっても内 容更新を希望する団体計 30 団体の掲載作業を行った。

かながわ生活応援サイトの掲載状況：2023 年 3 月末現在 128 団体(2022 年 3 月末は 99 団体)

（2）ネットワーク会議や学習会の周知、コロナ禍の生活困窮者支援に関するアンケートの 回答依頼等を、「かなこんネットからのお知らせ(メールマガジン)」として配信した。

配信先は、かながわ応援サイト掲載団体や、これまでネットワーク会議等に参加した行 政職員、関係機関、民間団体等である。2022 年 3 月末段階での配信先登録者数は、450 である。 また、かなこんネットの FB ページ https://www.facebook.com/kanacon/においても、 ネットワーク会議や学習会、かながわ生活応援サイト掲載団体の実施する学習会等の情 報を掲載した。

【かなこんネットからのお知らせ(メールマガジン)配信登録者数】

・2023 年 3 月末現在 533 団体・個人(2023 年 3 月末は 450 団体・個人)

・事業 2：研修&ネットワーク会議の企画・運営

毎月、県生活援護課とネットワーク幹事団体がオンライン幹事会を開き、一年間の「研修&ネットワーク会議」の企画・運営に関する打合せを行い、研修・報告会を開催した。2021 年度はコロナ禍で困窮状態に陥っている人たちの切 実な課題となっている「医」「食」「住」をテーマとしたが、その中から、見えにくい困窮の 存在が深刻な問題となっている事に気づかされ、2022 年度は、「見えない困窮」をテーマと した。具体的には、「不安定居住」「10 代が抱える困難」をテーマとした。

ネットワーク会議においては、Zoom を利用したオンライン開催であっても、参加者が、 より率直に意見交換できるように、昨年度に引き続き、ブレイクアウトセッションを取り入 れ、参加者全員が意見を述べる機会を設けるとともに、参加者相互の情報交換や関係づくり の機会ともした。

<詳細は別紙４参照>

(5) 就労支援及び無料職業紹介事業

川崎若者就労･生活自立支援センター･ブリュッケでは、「就労支援を通じて、企業・地域とつながり～企業・地域と連携して、本人の自立・就労をサポートする」という視点を重視した就労支援及び職業紹介を行なった。

【別紙１】えんくる

〇たまりばフードパントリーの配布数と利用者数

	配布数（個数）		配布量（ｋｇ）		利用者数（人）		日数
	１か月	１日	１か月	１日	１か月	１日	
４月	2,106	124	942	55	166	10	17
５月	2,143	134	436	27	127	8	16
６月	2,680	158	570	34	133	8	17
７月	2,813	165	561	33	152	9	17
８月	1,803	100	642	36	185	10	18
９月	1,814	121	567	38	169	11	15
10 月	5,260	309	1,249	73	250	15	17
11 月	2,204	138	771	48	148	9	16
12 月	2,242	149	775	52	163	11	15
１月	1,575	113	607	43	162	12	14
２月	1,653	110	542	36	149	10	15
３月	2,189	122	835.13	46	205	11	18
累計	28,482	1,743	8,498	522	2,009	124	195
月平均	**2,374**	**145**	**708**	**43**	**167**	**10**	**16**

〇えんくる食堂利用者と利用者数

月別集計	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
実施回数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
月間こども利用者	73	69	68	76	70	82	68	76	79	88	77	77
月間大人利用者	62	59	63	55	57	59	50	65	66	57	68	57
月合計利用者	135	128	131	131	127	141	118	141	145	145	145	134
月平均利用者	45.0	42.7	43.7	43.7	42.3	47.0	39.3	47.0	48.3	48.3	48.3	44.7

年間実施回数	**年間こども利用者**	**年間大人利用者**	**年間合計利用者**	**年間平均利用者**
36	903	718	1621	45.03

〇こども☆きっさ

月	**4**	**5**	**6**	**7**	**8**	**9**	**10**	**11**	**12**	**1**	**2**	**3**	**合計**
参加人数	**133**	**100**	**117**	**83**	**99**	**90**	**110**	**100**	**105**	**91**	**89**	**128**	**1245**
日数	**14**	**13**	**13**	**12**	**14**	**11**	**12**	**12**	**10**	**10**	**10**	**14**	**145**
１日平均	**9.50**	**7.69**	**9.00**	**6.92**	**7.07**	**8.18**	**9.17**	**8.33**	**10.50**	**9.10**	**8.90**	**9.14**	**8.59**

○チャレンジ・ラボ

日付	テーマ	講師	参加数
6 月 15 日	蜂の生態を知り蜜蝋クリームを作る	山下美智代	6
7 月 6 日	ルーを使用しないスパイスカレーの作り方	赤野香織	9
8 月 12 日	沖縄の今と昔　三線を聞く	福嶺衆宝	6
8 月 17 日	夏休みスペシャル木工飛行機づくり	福嶺衆宝	7
9 月 27 日	よかよかお灸カフェ	愛甲香織	5
10 月 21 日	ジャック・オーランタン	中川裕子	7
11 月 25 日	クリスマスリーズづくり	高橋よう	12
12 月 21 日	美味しい珈琲の淹れ方	田邊恵佑	4
1 月 27 日	簡単筆文字講座	小川宏美	6
2 月 15 日	レジン de ストラップづくり	松山湖春	8
3 月 22 日	美味しい珈琲の淹れ方	田邊恵佑	3
		参加者合計	73

○相談カフェ

日時	相談内容	
4 月 27 日(水)	・ひとり暮らし　収入の減少	40 代女性
	・子どものひきこもり、将来の不安	40 代女性
5 月 27 日(金)	・ひとり暮らし　生活全般の不安	30 代女性
	・娘の将来について	50 代女性
6 月 29 日(水)	・ひとり親　娘に障がいがある	50 代女性
	・ギャンブル依存　就労支援	20 代男性
7 月 23 日(土)	・母子家庭への支援、こどもの不登校	40 代女性
	・保護は受けたくないが　医療費が高い	60 代男性
8 月 27 日(土)	・家の修繕について、次男の相談支援	50 代女性
	・耳が聞こえない　健康診断受診したい	40 代男性
12 月 14 日(水)	・子どもが突然学校にいけなくなった	50 代女性
	・コロナからうつ病を発症　仕事	40 代女性
1 月 25 日(水)	・一人暮らし保護世帯　病気がち	50 代女性
	・一人親世帯　職場のパワハラで退職	30 代女性
2 月 13 日(水)	・娘の不登校　高校進学について	40 代女性
	・仕事を辞めて傷病手当を受給したい	40 代女性
3 月 22 日(水)	・担当ワーカーについて	50 代女性
	・夫が仕事を代わり収入が減少	**30 代女性**

【別紙 2】＜フリースペースえん＞

連続講座

講座名	実施回数	内容
平センとものづくり		
～作ってあそぼう～	月１回	平林浩さんとブーメラン、花火、編み機等身の回りにあるものを実際に作り、遊んでみることで物のしくみや科学について学んでいる。
俳優・片岡五郎さんの演劇講座	月１回	「西部警察」「水戸黄門」にも何度も出演している俳優の片岡五郎さんと演劇ワークショップ。殺陣の身のこなしや発声のしかたを学んでいる。
ジャンベをたたこう	月１回	西アフリカの太鼓であるジャンベをコンゴ出身の B.B.モフランさんとたたき、楽譜は使わずに体を使って様々なリズムをきざむ。
フォルクローレを		
演奏しよう	月１回	チャランゴ奏者の TOYO 草薙さんとともに、アンデス地方の民族楽器（チャランゴ・ケーナ・サンポーニャなど）をみんなで合わせて演奏をする。
長岡さんのケーナ		
講座	月１回	ケーナ奏者の長岡竜介さんに、初級者から上級者までそれぞれのニーズにあわせて、南米のたて笛・ケーナの吹き方を教わる。
ジャズダンス	月１回	ジャズダンススタジオ＜アミューズ＞を主宰している西崎小恵子さんとともに、自分達の好きな曲に合わせてジャズダンスを踊る。
ボイストレーニング	月１回	西崎小恵子さんとともに、大きな声で歌ったり、歌がうまくなるためのボイストレーニングを行なったりしている。
アート	月１回	有北いく子さんとともに、絵を描くだけでなく、木のつるや和紙を使った作品や、カード・カレンダーなどを作っている。
イタリアンパスタ		
講座	月１回	元イタリアンシェフの小林英紀さんといろんなパスタを作る。包丁の持ち方など基本から教えてもらい、料理の楽しさを知る。

単発企画（実施・参加したもの）

実施時期	企　画
4 月 20 日	岡本太郎美術館へ行こう
6 月 25 日	2021 年度　活動報告会
6 月 26 日	「子どもの権利かるた」で遊ぼう
7 月 18 日	夢パまつり
7 月 25 日～27 日	夏合宿@玉川キャンプ村（山梨県小菅村）
9 月 4 日	＜演奏参加＞どんなもんじゃまつり（高津区市民活動見本市）in 高津区役所
9 月 6 日	防げ！ホコリ火災&防災訓練
9 月 10 日	フリフリフェスタ　in 県立青少年センター
10 月 9 日	雑居まつり　in 世田谷区羽根木公園
11 月 6 日	こどもゆめ横丁（子ども商店街）
11 月 24 日	みんなで染めよう！藍染めの日
12 月 12 日	遠藤さんとクリスマスリースをつくろう
12 月 15 日	大そうじ

12 月 16 日	えんクリスマスパーティー
12 月 23 日	夢パーク：クリスマスイベント
1 月 8 日	新春イベント
1 月 29 日～31 日	冬合宿@木島平スキー場（長野県下高井郡木島平村）
2 月 22 日	ピンクシャツデー　「いじめについて語ろう」講師：渡邉信二氏
3 月 4 日	たまりばフェスティバル

その他の企画

企画	実施回数
おはよう、スタディ！（学習支援）	週２回
きれいにし隊（近隣清掃）	週１回
バースデーパーティー	月１回
畑づくりプロジェクト　石井さん　渡辺さん	通年
着物の着付け、茶道　吉田弘子さん	随時
おやつづくり	随時
藍染め	随時
ものづくり（木工、手芸など）　福峯衆宝さん	随時
本整理し隊	随時

【別紙 3】＜ブリュッケ＞

活動内容Ⅰ　～みんな de ワークと開所日の取組み

①コミュニケーション・ソーシャルスキルワーク

井戸端会議	やりたいことやプログラムの内容など若者たちが決める月例会議。
それぞれの「名作」を語る	アニメ、漫画、映画、ゲームなど、自分だけの名作を語る。
みんなの音楽	お薦めの音楽を YouTube の動画とともに紹介する。
みんなのお笑い	お笑い動画をはじめ、笑顔になれる情報を交換し合う。
ゲーム研究会	デジタル、アナログ様々なゲームをみんなで楽しむ時間。
Brucke シアター	井戸端会議で決めた映画を鑑賞。感想を語り合う。
サイコロトーク	トークテーマを決めて様々な話題を語り合う。
笑顔の時間	お笑い動画をはじめ、笑顔になれる情報を交換し合う。
写真共有会	若者がスマホで撮った写真を共有。出来事や気持ちを発表する。
三瓶さんの知らない世界	それぞれの好きな世界、得意分野などをプレゼンする。
フリーデー	何もしない日が欲しいという声から実現。それぞれにやりたいことを見つけ、自分のペースで取り組む。

②体験のワーク

誕生日会	誕生月の若者が「食べたいケーキ」を選び、みんなで作ってお祝い
スィーツ部	みんなでお菓子作りを体験。
太極拳教室	太極拳歴 20 年の講師による初心者からの太極拳と気功の体験講座
よかよかお灸カフェ	東洋医学とツボを学びながら自分をケアする方法を教わる。
スポーツデー	体を動かしたいという希望から実現。運動が苦手な人向けに「ゆるスポーツ」も実施。
心理ワークショップ	臨床心理士によるエゴグラム体験講座。
手作りワークショップ	ものづくり体験。地域で様々な取り組みをする方等に講師を依頼。 6 月：オリジナル T シャツづくり 7 月：チョークアート・くるみボタン・ソープカービング講座 8 月：ミニチュアワークショップ 9 月：お菓子屋さんのお菓子作り教室～マドレーヌ編～ 12 月：フラワーアレンジメント講座 1 月：お菓子屋のお菓子作り教室～クッキー編 3 月：手作りスプーン講座
生き方歩き方講座	「色んな人生を知りたい」という声から企画し実現。 5 月：珈琲講座　コーヒーの知識と講師の人生について 12 月：ボリビアの話を聞こう　ボリビアの文化や楽器触れる 2 月：元ひきこもりのミュージシャン哲生さんのトーク＆ライブ
外出企画	4 月：中華街 5 月：生田緑地、江ノ島水族館（オンライン配信） 6 月：妙楽寺（オンライン配信、カフェ巡りも実施） 7 月：東京駅散策（カフェ巡りも実施） 8 月：映画館、ボウリング

	9月：美術館（アリス・水木しげる展） 11月：生田緑地、カフェ巡り@新城 12月：秋葉原 1月：川崎大師 3月：箱根、カフェ巡り@新城

③イベント

移転1周年記念お祝い会	ブリュッケ移転1周年のお祝い会を開催。
麻雀交流会	ひきこもり地域支援センターの利用者との麻雀交流会を実施。
ブリュッケフェス２０２２～つなぐ～	関係機関、関係者などを招待し、若者たちが考えたプログラムで楽しんでもらうイベントを開催した。
クリスマス&忘年会	準備にも多くの若者が参加し、全員で行事を作りあげた。
ボードゲーム大会	毎月開催しているゲーム研究会の拡大版。ブリュッケの法律アドバイザーの弁護士を講師に招き、ゲームを通して法律を学んだ。
たまりばフェスティバル	法人が毎年開催しているたまりばフェスティバルに、若者がバンド出演や創作展示などで参加した。

活動内容Ⅱ　～ひとり de ワークと予約制居場所の取組み

①ひとり de ワーク

PC「個」ワーク	個ワークスペースを活用した PC 自主練習の時間。インターネット体験、タイピング練習などが人気。
珈琲工房	自家焙煎珈琲を作成。生豆の選別から焙煎まで、自分たちで学びながら実践。カフェ巡りのワークと連動させ、社会活動にもつなげている。
アートの日	イラストや創作など個々に作業をするワーク。グループワークの手作りワークショップやブリュッケフェス、ブリュッケよろずやなどの各種イベント・地域活動と連動させて活動した。
ふらっとタイム	やることを決めずに、なんとなく居場所にいれる時間。

②予約制居場所

ミニチュア陶芸	ニチュアサイズの陶器を制作する陶芸家によるワークショップ。手先の器用な利用者の特技を発揮する機会として、予約制居場所のグループワークとして実施した。
パソコン教室	タイピング練習やMicrosoft Office、ホームページ制作など、それぞれのニーズに合わせた個別教室を開催。
ミニシアター	自宅アウトリーチで好きなアニメ動画などの鑑賞を継続してきた若者が大きなスクリーンで好きなアニメの映画を見るために予約制居場所でのミニシアターを開催。継続して実施している。
ミニスイーツ部	男性が苦手などの理由で開所日の来所が難しい女性などが参加。本

	人が選んだレシピをもとに作成。レシピ考案の回と実際に作成する回を交互に開催している場合もある
その他（アウトリーチ）	個別ゲーム研究会（オンラインゲーム、ボードゲーム）、個別名作を語る（ポケモン、音楽、アイドル）、読書会、楽器練習、学習支援、プログラミング学習、個別外出企画（初詣、お花見、映画館、買い物など）など

【別紙４】

日時	方法	参加者	内容
１．第１回ネットワーク会議 「不安定居住者の現状について」~実態調査から見えてくること~			
2022 年９月 12 日(月) 15:00~17:00	Zoom	46 名	新型コロナウィルス感染症の拡大により、離職や休業により、家賃を支払うことが困難な人が増加しており、不安定居住状態の人が増えている。自分名義の住宅に住んでい ない不安定居住層には、ネットカフェのような、住まいではないところに短期的に居住 する人もいれば、社員寮や飯場のように労働力を担保として住まいを得る経済的暫定 居住の人もいる。最近では、外国人技能実習生もおり、働き続けないと在留資格がなくなってしまうため無権利状態のまま暮らしている人もいる。また、家庭不和や DV など、様々な事情に より自宅で暮らすことが困難な方々もいる。このような「不安定居住の現状」について、報告者から実態調査の結果などを踏まえ て報告してもらい、その結果から見えてくることを、参加者と共有する。「見えない困窮」を、どのようにすれば見えるのか、そして、どのような連携・支援 が可能かを、参加者と共に考える。 ○報告:水内俊雄さん (大阪公立大学客員教授、西成労働福祉センター職員、NPO 法人ホームレス支援全国ネットワーク理事) ○コメント:高沢幸男さん(寿支援者交流会事務局長、NPO 法人ホームレス支援全国 ネットワーク理事)
２．第 2 回ネットワーク会議 「多様化する不安定居住~支援の現場から見える不安定居住の実態」			
2022 年 11 月 7 日(月) 15:00~17:00	Zoom	45 名	2022 年度第 2 回ネットワーク会議は「多様化する不安定居住」という切り口で、様々な支援の現場から報告をいただく。 ネットカフェ難民という言葉が広く浸透し、不安定居住の実態は私たちの想像を越 えて多様化し、社会にその影を潜めている。コロナ禍で職を失った勤労世代の方々、ひ とり親の親子、家庭に居場所がない子どもたちが、社会の片隅の不安定な居場所での生 活を余儀なくされてる。今回は、支援の現場でその影の一端に触れて活動を続ける支援者を迎え、参加者とと もに多角的な視点から理解を深め、潜んでいる問題や課題を明らかにする。 ◆報告: ○川崎市ホームレス自立支援センター「生活づくり支援ホーム下野毛」の運営 中高年事業団やまて企業組合 福祉事業部 山口耕樹さん ○若者支援(相談・住居提供・付き添い等)を行う 一般社団法人アマヤドリ 代表理事 菊池操さん ○シングルマザー向けシェアハウス/セーフティーネット住宅「シェアハウス yorozuya」 運営者 小林剛さん ○不安定就労者への生活・居住・就労支援「TOKYO チャレンジネット」 社会福祉法人やまて福祉会 TOKYO チャレンジネット所長 小田 智雄さん ◆内容:前半は各支援の現場からの報告、後半は参加者/報告者を含めたグループでの意見交換

3. 第3回ネットワーク会議 相談支援から見える 10 代が抱える困難を考える			
2023 年 1 月 23 日(月) 18:30~20:30	Zoom	79 名	報告: ○児童養護施設を退所した若者たちのサポートの実情 社会福祉法人白十字会林間学校あすなろサポートステーション 所長 福本啓介さん ○教育相談から見えてくる課題~外国につながる子ども、多文化家族支援~ 認定 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ 理事 薮崎千鶴子さん ○10 代 20 代の生きづらさを抱える女の子のための女性による支援を行う 特定非営利活動法人 BOND プロジェクト 統括:多田憲二郎 さん、 事務局長:竹下奈都子 さん
4. 第1回学習会 10 代が抱える困難を考える「ケアラー・ヤングケアラー問題を学ぶ」			
2022 年 12 月 12 日 (月)15:00~17:00	Zoom	74 名	近年ケアラー・ヤングケアラーが注目されている。単にケアラー・ヤングケアラーといっても様々な状況があり、生活困窮者自立支援や、孤立・孤独問題などとも深く関係 していることを支援者も十分把握しきれていない。今回は、様々なヤングケアラーの状況や注目されてきた経緯、当事者が抱えている生 活の制限、将来への不安やケアラー問題の社会的背景、支援のあり方について、ケアラーを支える社会的仕組みを作るための活動をされてきた日本ケアラー連盟理事の中嶋 圭子さんを迎えて報告していただく。報告からヤングケアラーへの理解を参加者とと もに深めていく。 ◆内容: (1)ケアラー・ヤングケアラーの現状報告 報告者:中嶋圭子さん (一般社団法人日本ケアラー連盟理事・ 子どもと家族のための緊急提言プロジェクト運営委員・社会福祉士) (2)質疑応答、意見交換